

第5章 研究のまとめ

5.1 本研究における成果

本研究で得られた主要な成果は以下のとおりである。

- ①「まちづくりと一体となったLRT導入計画ガイドランス」の公表・配布（H17.10）
（宇都宮市、岡山市等において、LRT計画策定の参考図書として活用）
- ②多連トレーラを用いた都市間物流システムの提案
- ③「港湾貨物の背後輸送におけるボトルネック箇所の把握と解消効果」の提示
- ④「国際航空貨物の国内流動需要推計モデル」の構築、モデルを用いた政策シナリオの評価から経路選択特性や品目毎のODパターン等を把握
- ⑤貨物車交通への影響が大きい商慣行の抽出及び改善策とその実施シナリオの提案
- ⑦「交通結節点の乗り換え利便性評価マニュアル案」の作成配布（H18.2）
- ⑧「マルチモーダル施策の評価手法マニュアル（案）」を策定（地方自治体に配布するとともに交通計画担当者の研修テキストとして活用する予定）
- ⑨海外の都市交通制度や実態に関する情報を収集・分析し、社会資本整備審議会都市交通・市街地整備小委員会における検討に反映するとともに、平成19年度国土交通省重点施策「都市・地域総合交通戦略」の制度設計にも反映
- ⑩貨物流動の視点で道路ネットワークを評価する分析ツールとデータベースの構築

5.2 得られた成果について

高齢社会及び地球環境時代に対応した交通システムが求められている中、「まちづくりと一体となったLRT導入計画ガイドランス」の策定・公表は時宜を得たものであり、有益な成果であると判断される。

環境に配慮した効率的な物流の実現や国際競争力の強化の要請がある中、本研究では「国際航空貨物の国内流動需要推計モデルや経路選択モデルの構築」、「港湾貨物の背後流動におけるボトル

ネックの抽出とその解消効果算定ツールの開発」に加え、これらを用いた政策評価を実施した。また、物流の川上側での対策として「商慣行の改善策とその実施シナリオの提案」等、陸・海・空の各交通モードを対象に物流効率化に向けた施策提案や評価に資する研究が実施できたと判断される。

さらに、行政施策の評価が求められている中、「交通結節点の乗り換え利便性評価マニュアル（案）」や「マルチモーダル施策の評価手法マニュアル（案）」は、地方自治体等が多様なマルチモーダル施策を比較評価する際の有益なツールとなるものであり、効果的な研究が実施できたと考えられる。

「道路上の貨物流動の評価」については、国際物流に関して港湾貨物流動と背後輸送の道路利用が一体となった評価手法を構築するため、道路研究部と港湾研究部が連携して、双方が持つデータを統合したデータベースを構築し、評価結果を示した。

5.3 今後の課題

本テーマはマルチモーダル交通体系の構築を目的に研究を進め、上記のとおりガイドランスやマニュアル、評価・分析モデル等の一定の研究成果が得られた。しかし、マルチモーダル交通体系の実現に向けては、今後も各種交通モードが連携して、更なる検討を進めていく必要がある。特に港湾物流、航空貨物に関わる分析・研究については、アジアを中心とした貨物量の増大や、より効率的でシームレスな物流が求められていることなどを踏まえて、今回の国内での検討を中心としたマルチモーダル物流に関わる検討に加え、アジア圏を中心とした海外との貨物流動を含めたグローバルな検討・研究に発展させたい。

なお、各個別テーマの研究過程で得られた知見や課題については、各節ごとにまとめたので、参考にされたい。